



第 2 章

みんなが参加し、 交流でにぎわう まちづくり

地域経済の活性化に向けて、本村の特徴である農工併進を基本として、自動車交通の高い利便性を活用した工業や物流等の産業拠点の集積を促進するとともに、本村の基幹産業である農業を中心とした産業振興を推進します。

また、本村には村外から多くの交流人口が訪れる万葉クリエートパーク等の観光資源があるため、これら既存施設の強化をはじめとして、歴史・文化や自然環境等の魅力を最大限に生かしながら、本村のPR・認知度向上に向けた効果的な情報発信を行い、交流人口の拡大を目指します。そして、農商工連携による特産品の開発・販売等による地域産業の活性化に取り組むなど、交流人口を活用したまちづくりを展開していきます。

施策項目

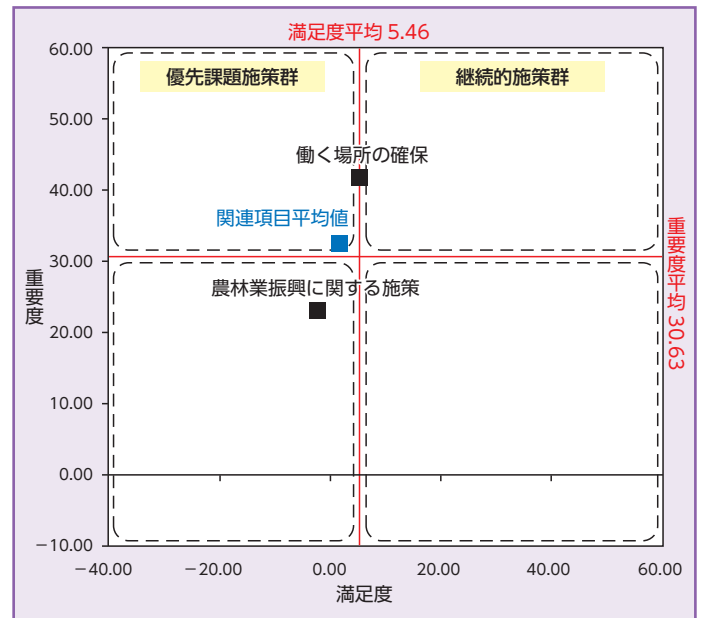
- ①農林業
- ②工業
- ③商業
- ④観光
- ⑤交流活性

1 農林業 — 創意工夫による農林業の活性化 —

▶ 住民ニーズ

平成30年7月に実施した住民アンケート結果から、本項目に関する住民ニーズを見ると、「**関連項目平均値**」の満足度は1.8で平均以下、重要度は32.4で平均以上であり、優先課題施策群となっています。

また、「**働く場所の確保**」の満足度は5.8で平均以上、重要度は41.8で平均以上であり、継続的の施策群となっています。「**農林業振興に関する施策**」の満足度は-2.2で平均以下、重要度は23.0で平均以下となっています。



▶ 現状と課題

米価の低迷により、農用地の利用率の低下が進んでいます。そのため、他産業との所得格差が拡大し、農業経営環境が厳しいことから、労働意欲の低下、農業就労者の減少につながっています。近年は、農事組合法人等が設立され、農地の集積が進みつつあります。

今後は、稲作の低コスト化を図るため、さらなる農地の利用集積・集約や、水稻以外の高収益作物の導入などが課題であり、年間所得水準の向上を実現する担い手農家の育成が必要です。

万葉・おおひら館が開館し、地域農産物や情報の発信基地としての役割が果たされています。他の産業との連携機会を増やしながら、さらなる農産物の販路拡大、6次産業化への移行などが今後の課題となっていきます。

また、森林資源を保全する人材が不足しており、その確保が課題となっています。

▶ 基本目標

本村の基幹産業であることから、各種産業と協働で農業振興に取り組む体制づくり、生産性の向上や農林業経営の効率改善、付加価値の高い農産物の生産と6次産業化の取組など、農林業の活性化を進めます。

(1) 生産性の向上への取組

- ①稲作以外の作付けを広めるために、多角的な集落農業による複合経営を推進します。また、転作による稲作以外の作付けの導入のため、農業拡張整備の支援に取り組みます。
- ②農地の利用集積・集約を図り、合理的な利用によるコスト低減、経営体質の強化を推進します。併せて、水田農業の効率化、低コスト化のため、農用地の大規模化を促進し、国や県からの情報も活用し、農家の所得向上を図ります。
- ③コンクリート水路を整備するなど機能向上を図り、小規模の個人水路についても整備の支援を図っていきます。
- ④森林保全のために必要な間伐や、保育を行うための既設林道の改良に努めます。

(2) 農林業経営への支援

- ①認定農業者等に対して、農業団体と協力しながら主要な農業施設や機械などを利用できるよう支援に取り組みます。
- ②各種国県補助事業や低利の融資制度による支援を図り、更には有害鳥獣対策も行いながら、意欲ある農業生産者が安心して農業に取り組めるよう努めます。
- ③兼業農家の農業経営について、セミナーや講習会・実演会などを開催し、集落営農なども含めた農業の普及・啓発活動に努めます。
- ④農業団体などと協力し、離農などによる農地の荒廃を防止するとともに、農地の利用集積・集約の推進を図ります。
- ⑤農業振興のための販路拡大、流通システムの効率化について、企業と農業団体の連携を図ります。大規模生産者に対しては、企業や学校給食センターなどへの販売促進に取り組みます。
- ⑥不作付地や耕作放棄地を利用した新規作物、畜産等の導入促進を検討するとともに、農業体験教室の開催や、家庭菜園としての貸し出しを行い、農業のPRの場としての運用を、農業団体と連携、協力しながら推進します。
- ⑦計画的な植林・間伐・保育などの再生林を促進するため、森林資源を保全する担い手の育成を図ります。

(3) 農業後継者の育成に対する支援

- ①国や県、農業団体と連携し、就業前の若い世代に農業に関する広報・啓発活動を推進するとともに、就農希望者・新規就農者への積極的な支援を図ります。
- ②周辺市町の農業後継者育成団体との交流を深め、農業研究グループやサークルなどの育成を図ります。
- ③農業を担う人材の育成に関する専門家を招き、農業従事者の意識啓発を進め、人材育成のシステム化に努めます。
- ④農業をやりたくてもやり方が分からない人が、農業を体験できるよう、市民農園で農業を指導してもらえる仕組みづくりを検討します。

(4) 環境整備事業の推進

- ①治山・治水対策事業と連携した健全な森林整備と保安林の適切な管理による森林保全に努めます。森林保全については広域的な連携を継続し、引き続き森林病虫害等防除事業に取り組みます。
- ②森林保全のための資金確保として、企業などと連携し、森林オーナー制度などへの取組を推進します。

- ③企業進出などによる新たな居住者を対象としたグリーン・ツーリズムを推進し、住民間の交流促進を図ります。
- ④森林を活かした自然体験活動を参加者と協働で開催し、植林・間伐・保育への参加や公園等への木材を活用した施設づくりなどに取り組みます。

(5) 特産品の創出

- ①米以外の特産品の開発について、農業団体や商工会・大学等と連携し、特産品開発コンテストの実施など、その支援を図ります。
- ②農業従事者は生産の専門家として参加し、商工関係者は販売の専門家として参加する、異業種間交流に取り組みながら、特産品の創出に努めます。
- ③「安全な食」へのこだわりや、「土や水」へのこだわり、授産施設で地場産品を作ってPRするなど、農産物に付加価値を付けるための支援を推進します。また、きのこや山菜といった食料供給のための森林を整備し、栽培、加工などを促進します。そして、作った農作物を加工するなどして新たな付加価値を生み出す、農業の6次産業化の取組を支援します。

(6) 高齢者の生きがいづくり

- ①高齢者の農業分野での雇用を農業団体などと協力し推進します。
- ②経験のある農業従事者が指導者となって、家庭菜園や農業体験教室で、活躍できる仕組みづくりを検討します。
- ③農業後継者育成のために、高齢者の技能や知識、これまでの取組や販売知識などについて継承活動を推進します。
- ④健康増進の場として森林の活用に取り組みます。

(7) 情報化の支援

- ①インターネットなどにより、気象や作付けに関する情報を共有できるシステムづくりを支援します。
- ②ロボット技術や情報通信技術等を活用して省力化・精密化や高品質生産等を実現するため、スマート農業の導入について検討します。

(8) 畜産業の振興

- ①稲作農家と連携し、良質粗飼料生産を進め、米の高収益作物のひとつとして飼料作物の栽培を推進し、畜産業の振興を図ります。

年度目標

施策の方向	主な事業	実施スケジュール										担当課		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11			
(1) 生産性の向上への取組	<ul style="list-style-type: none"> 経営所得安定対策 環境整備支援事業 													産業振興課
(2) 農林業経営への支援	<ul style="list-style-type: none"> 経営体育成支援事業 資金貸付事業 集落営農、法人化への支援 多面的機能事業 													産業振興課
(3) 農業後継者の育成に対する支援	<ul style="list-style-type: none"> 農業次世代人材投資事業 													産業振興課
(4) 環境整備事業の推進	<ul style="list-style-type: none"> 多面的機能支払交付金事業 環境整備支援事業 復旧治山事業 森林業害虫防除等事業 													産業振興課 企画財政課
(5) 特産品の創出	<ul style="list-style-type: none"> 特産品販路開拓支援事業 環境保全型農業直接支援事業 													産業振興課 企画財政課
(6) 高齢者の生きがいづくり														産業振興課 企画財政課 健康福祉課
(7) 情報化の支援														産業振興課
(8) 畜産業の振興	<ul style="list-style-type: none"> 経営所得安定対策 													産業振興課



●用語解説●

■ 6次産業化

「農林水産業（1次産業）が、加工（2次産業）や流通・販売（3次産業）と連携・融合する取組」で、1次産業 × 2次産業 × 3次産業 = 「6次産業」で表され、農林漁業者が農畜産物・水産物の生産だけでなく、食品加工や流通・販売にも取り組み、所得（収入）を向上させて、農林水産業を活性化し、農山漁村の経済を豊かにしていこうとする取組。

■ 認定農業者

平成5年に制定された農業経営基盤強化促進法により、それまでの農業経営規模拡大計画の認定制度を拡充し、農業経営の規模の拡大、生産方式・経営管理の合理化、農業従事の態様の改善等農業経営の改善を図った計画における認定者。

■ 不作付地

農林水産省の統計調査における区分であり、調査日以前1年以上作付けせず、今後数年の間に再び耕作するはっきりした意思のない土地。

■ グリーン・ツーリズム

公的な施設などを利用した滞在型交流、日帰り型交流。多様な交流活動が進む中から、民宿やレストラン等への農林家の主体的な取組が生まれるような余暇活動。

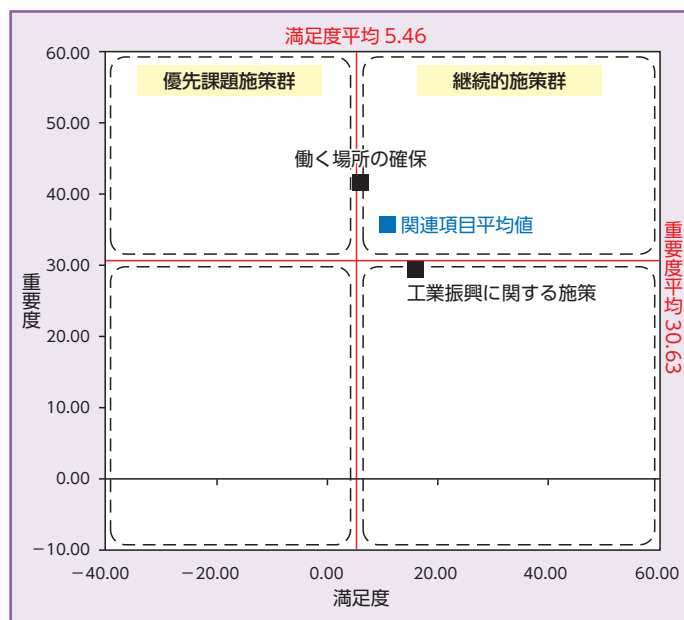


2 工業 — 活力を生み出す工業 —

▶ 住民ニーズ

平成 30 年 7 月に実施した住民アンケート結果から、本項目に関する住民ニーズを見ると、「**関連項目平均値**」の満足度は10.7で平均以上、重要度は35.8で平均以上であり、継続的施策群となっています。

また、「**働く場所の確保**」の満足度は5.8で平均以上、重要度は41.8で平均以上であり、継続的施策群となっています。「**工業振興に関する施策**」の満足度は15.6で平均以上、重要度は29.7で平均以下となっています。



▶ 現状と課題

第二仙台北部中核工業団地やその他の工業団地において、自動車関連の製造企業等の立地が進み、本村の産業振興に寄与しています。大衡工業団地B地区造成事業や第二工業団地再造成事業により基盤整備が完了し、さらなる企業の誘致活動に取り組んでいます。引き続き、仙台都市圏としての立地条件の有利さをアピールすることも重要であり、そのための連携軸の維持や定住促進に関する整備が今後の課題です。また、さらなる工業団地の充実のほか、周辺のインフラ整備なども必要です。

▶ 基本目標

本村の都市活力としてこれからも維持するため、自動車を始めとした産業集積拠点としての付加価値を活かした企業誘致と、雇用促進による地域活性化、各種産業との連携に伴う相乗効果による地域産業の振興を図ります。

施策の方向

(1) 既存産業との連携強化

- ①既存企業に対して、円滑な資金活用のための各種融資制度の拡充や情報の提供を図り、利用促進による小規模企業の振興に努めます。
- ②進出企業との情報交換や情報提供を図り、技術の高度化や販路の拡大を促進します。
- ③工場見学会やイベントなどの開催を支援し、企業と住民との交流を促進します。

(2) 企業誘致の促進

- ①独自性のある工業団地とするための企業誘致等をさらに促進します。

(3) 雇用の促進

- ①立地企業に対して、地元住民が雇用されるよう採用枠の拡大要請を積極的に推進します。
- ②次世代を担う若者世代が村内で働くことができるよう、創業や起業を支援します。
- ③民間企業の協力を得ながら、高齢者や障害者の雇用の創出を図ります。

(4) 異業種交流の推進

- ①大規模生産者の安定した生産量を活かした販路拡大を図るため、地元企業内消費や、企業との連携による販路の開拓、促進など、民間企業と農業団体の連携を促進します。
- ②本村の産業振興のために、工業振興と連動した農林業、商業、観光への取組をまとめる異業種間交流を推進します。

(5) 環境保全および景観形成への配慮

- ①立地企業との環境協定などの締結を進め、景観形成に配慮した整備による自然との調和を図ります。また、各企業の排水処理対策の確立を推進します。

年度目標

施策の方向	主な事業	実施スケジュール										担当課		
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11			
(1) 既存産業との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者経営改善事業 ・企業懇談会 ・イベントの実施 													産業振興課
(2) 企業誘致の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・企業訪問及び企業立地促進奨励事業 													産業振興課
(3) 雇用の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・シルバー人材センター事業 													企画財政課 産業振興課
(4) 異業種交流の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・特産品販路開拓支援事業 													産業振興課
(5) 環境保全および景観形成への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・環境協定締結事業 													産業振興課

用語解説

■ 環境協定

環境への負荷を低減するため、事業者が実施すべき事業活動への対策を定めた協定書で、環境保全を図るものである。事業者による自主的かつ率先的な環境保全活動

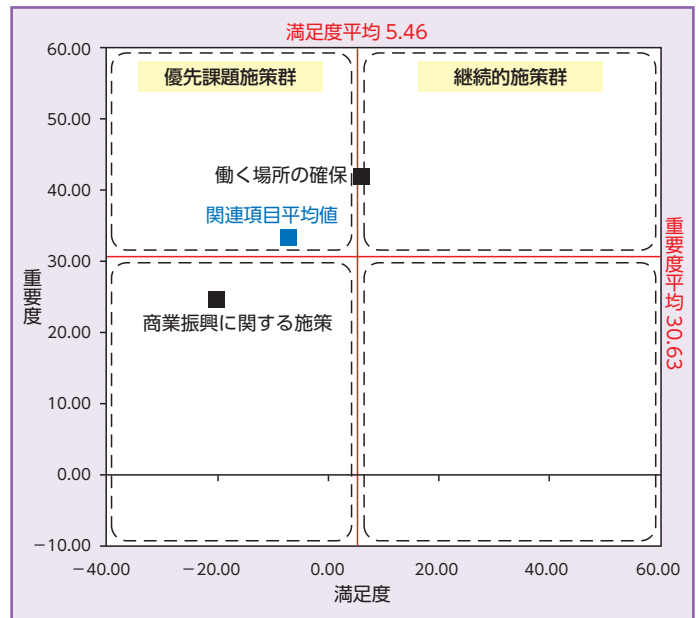


3 商業 — 利便性向上に向けた商業 —

▶ 住民ニーズ

平成 30 年 7 月に実施した住民アンケート結果から、本項目に関する住民ニーズを見ると、「**関連項目平均値**」の満足度は -7.1 で平均以下、重要度は 33.4 で平均以上であり、優先課題施策群となっています。

また、「**働く場所の確保**」の満足度は 5.8 で平均以上、重要度は 41.8 で平均以上であり、継続的施策群となっています。「**商業振興に関する施策**」の満足度は -20.4 で平均以下、重要度は 24.8 で平均以下となっています。



▶ 現状と課題

本村の商業施設は、国道 4 号や国道 457 号沿道等に、小規模な店舗が点在し、ショッピングセンターや量販店はなく商業施設の集積が見られないのが現状です。

買い物動向からも、商業施設利用は、大和町や富谷市、仙台市に依存しており、商業施設の必要性が求められる一方、既存商店の衰退も見られます。このような中、万葉クリエートパーク・第二仙台北部中核工業団地の隣接地に農産物展示販売所「万葉・おおひら館」を整備し、周辺にも店舗が立地したことにより、企業見学者や万葉クリエートパーク来園者の利便性向上に寄与しています。

また本村では、他市町と比べ農業就業者の割合も高く、農業振興と連携した販路拡大についても検討が必要です。

▶ 基本目標

定住促進に向け、生活利便施設として、商業施設の充実を図ります。また、「万葉・おおひら館」を主体とした、商業形態の展開に取り組みながら、買い物利便性向上や地場製品の消費拡大等を目的とした事業者・企業との連携や組織づくりを進めます。

施策の方向

(1) 地域振興施設の整備促進

- ①「万葉・おおひら館」の利用促進を図るとともに、住民の交流と地域の活性化を目指し、整備手法や管理運営形態も含め、地域振興施設の整備方策を検討します。

(2) 販路の形成

- ①住民の日常的な買い物ニーズに対応した、ショッピングセンターや量販店などの誘致に努めます。また、「万葉・おおひら館」の利用促進を図ります。
- ②高齢者などでも買い物しやすいよう、地区の集会所などで移動販売車による日用品の販売等の実施を、移動販売業者などに働きかけます。

(3) 商業の拠点形成

- ①地区計画の見直しによる、商業施設などの生活利便施設の誘導を図りながら、「万葉・おおひら館」の取り扱い品目の拡大等により生活利便性の高い商業施設の形成を検討します。

(4) 商業振興と各産業との連携

- ①商工会、農業団体、観光関係者、大学等などと協力しながら、本村の特産品開発を支援します。
- ②商工会や地元商店、農業団体などと連携しながら、地場産品や特産品の販路拡大、販売促進に取り組みます。また、村内において買い物利便性向上・地場産品の消費拡大を図る取組を検討します。

(5) 各産業合同組織の確立

- ①農商工が戦略的なリーダーのもとで連携し、産業振興のために活動する組織づくりの方策を検討します。



年度目標

施策の方向	主な事業	実施スケジュール										担当課
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	
(1) 地域振興 施設の整備 促進	・大衡村都市計画マスタープランの推進	→										産業振興課 都市建設課
(2) 販路の形成	・量販店の誘致	→										産業振興課
(3) 商業の拠点 形成	・大衡村都市計画マスタープランの推進 ・中心市街地整備基本計画の推進 ・大衡村地方創生総合戦略の推進	→										都市建設課
(4) 商業振興と 各産業との 連携		→										産業振興課
(5) 各産業合同 組織の確立		→										産業振興課

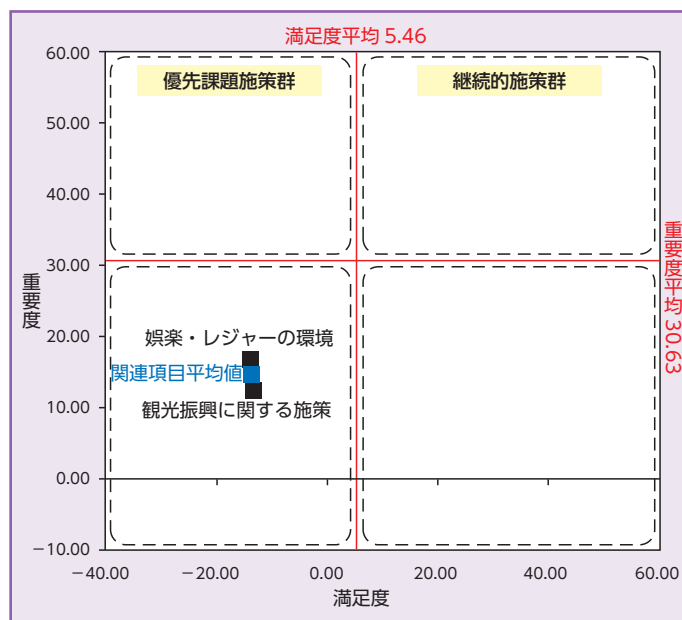


4 観光 — 地域活性化に資する観光 —

▶ 住民ニーズ

平成30年7月に実施した住民アンケート結果から、本項目に関する住民ニーズを見ると、「**関連項目平均値**」の満足度は-13.9で平均以下、重要度は14.6で平均以下となっています。

また、「**観光振興に関する施策**」の満足度は-13.6で平均以下、重要度は12.4で平均以下となっています。「**娯楽・レジャーの環境**」の満足度は-14.3で平均以下、重要度は16.8で平均以下となっています。



▶ 現状と課題

村の主な観光客を見ると、「おおひら万葉パークゴルフ場」の人气が高く、「万葉クリエートパーク」や「昭和万葉の森」の入込みが多くなっています。地域活性化に向けて、この交流人口を生かし、さらなる施策を展開するとともに、本村をアピールする絶好の機会として活用することが求められます。また一方で、万葉クリエートパークの維持費高騰が課題となっています。

本村の豊かな田園風景や、その中で展開される農業の営みなどは、本村の観光資源としての活用が望まれています。今後は、これらを発掘し、魅力あるものへと転換・活用する施策が必要です。また、農林業、工業など各産業が連携し、交流人口の拡大に向けて本村の魅力を高める必要があります。

▶ 基本目標

地域活性化に向けて、本村の持っている可能性を生かし、観光まちづくりの推進や既存の観光スポットとの観光ネットワークを充実することにより、魅力ある観光地として本村をアピールし、交流人口の拡大を図ります。

施策の方向

(1) 観光資源の発掘

- ①観光資源の発掘のため、住民と大学等と協働による調査など、具体的な実施方を検討します。
- ②ゆるキャラを創出するなどイベントを活用した観光振興をさらに推進します。

(2) 大衡ブランドの創出

- ①村独自の推奨作物の生産や、加工品の開発、郷土料理の普及、地場産品を活かした特徴ある飲食店の展開など、農林業、地場産業の各団体、企業と協力し取組方を検討します。
- ②直売所を活用した地産地消による販売促進に努めるとともに、さらなる特産品の発掘を図ります。
- ③本村の地域振興施設のみ購入可能な特産品や土産物、民芸品の開発販売を、住民、各種団体、民間企業とコミュニケーションを交えながら推進します。
- ④マルシェや移動販売など、住民が観光客に対して行う販売活動などの支援方を検討します。

(3) 観光まちづくりの推進

- ①観光振興施策や施設整備の基本指針をつくるなど、観光まちづくり推進方を検討します。
- ②「万葉・おおひら館」において農家と協力し、野菜の詰め放題イベントや野菜等のもぎとり体験といった販売促進施策を図るとともに、住民の交流と地域の活性化を目指し、整備手法や管理運営形態も含め、地域振興施設の整備方を検討します。また、既存の施設との複合化による観光施設のさらなる充実を図り、交流人口の拡大に努めます。
- ③万葉クリエートパークや万葉の森への彼岸花等の植栽や、住民が出店できるフリーマーケットやマルシェの開催、継続的なイベント実施、付近への温泉施設の誘致など、積雪時を含む利用率向上方を検討します。
- ④牛野ダム周辺地域は、住民と協力しながら、イベント開催やキャンプ場の拡幅、有料の遊び場の整備など、より利用率を上げる方を検討し、地域の振興を図ります。
- ⑤牛野ダムやパークゴルフ場などの観光施設において、村の認知度向上を図る活動を促進します。
- ⑥空き家を利用した宿泊農業体験の実施など、農業を活用した交流の創出などの支援方を検討します。

(4) 観光ネットワークの整備

- ①イベント開催時に村内の他の観光施設への誘導や、観光施設と魅力的な資源を結ぶ観光ルートの設定、大衡ICの立地を活かした集客の誘導、イベント実施にあわせた高速バスの運行など、観光ネットワークづくりを検討します。
- ②村ホームページの拡大や広域パンフレット等の活用により、観光スポットのPR・知名度向上に取り組みます。
- ③地域間の回遊性を高め、観光施設ごとの物語性を明らかにすることで、印象的な観光地づくりの推進方を検討します。
- ④国や県が進める観光施策と連携し、交流人口の拡大に取り組みます。
- ⑤交流人口の拡大のため、企業見学・工場見学の観光ルートへの組み込みや、民間旅行会社との連携、大衡村に訪れる旅などの企画立案の支援など、観光ネットワークの形成方を検討します。

年度目標

施策の方向	主な事業	実施スケジュール										担当課
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	
(1) 観光資源の発掘	<ul style="list-style-type: none"> ゆるキャラによる村のPR イベントの実施 	→										産業振興課
(2) 大衡ブランドの創出	<ul style="list-style-type: none"> 農産物展示販売所運営事業 	→										産業振興課 企画財政課
(3) 観光まちづくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> 大衡村都市計画マスタープランの推進 	→										産業振興課 都市建設課
(4) 観光ネットワークの整備	<ul style="list-style-type: none"> イベントの実施 広域パンフ事業 	→										産業振興課

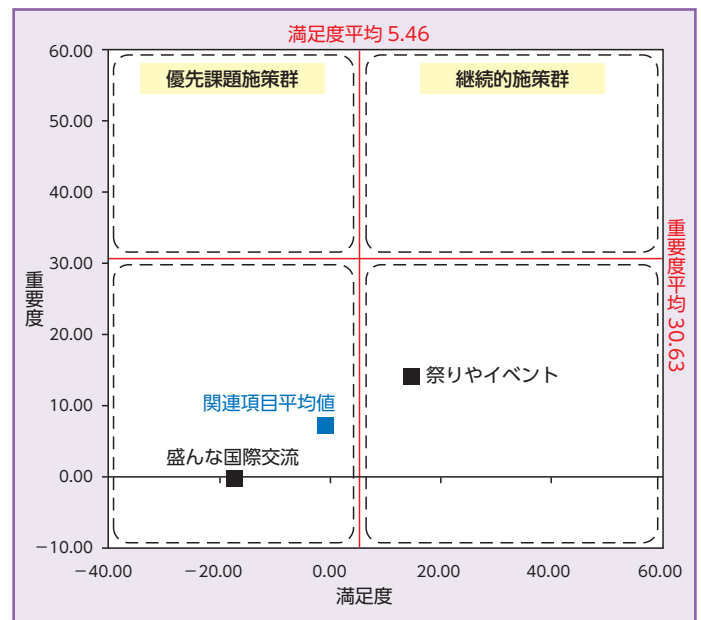


5 交流活性 — 村全体での交流活性による支え合い —

▶ 住民ニーズ

平成 30 年 7 月に実施した住民アンケート結果から、本項目に関する住民ニーズを見ると、「**関連項目平均値**」の満足度は-0.7で平均以下、重要度は7.0で平均以下となっています。

また、「**祭りやイベント**」の満足度は14.7で平均以上、重要度は14.0で平均以下となっています。「**盛んな国際交流**」の満足度は-7.9で平均以上、重要度は17.2で平均以下となっています。



▶ 現状と課題

本村は各地区において地区活動が展開されており、良好なコミュニティが育まれています。本村の人口規模やこれら地区のコミュニティを基本としながら、本村を持続するためには、地区を超えて支え合えるように村全体での交流活性が必要です。

また、企業進出による就業者の集積地となっている本村は、交流の場となることが想定されます。現在、既存企業と新規立地企業などで連携強化が図られており、産業や観光といった交流拠点の形成とともに、このチャンス进行交流活動として展開し、新たな魅力づくりにつなげることが必要です。

そして今後は、それらの交流活動を活発に推進するための交流推進体制の強化についても必要です。

▶ 基本目標

本村を持続するため、地区を超えて支え合えるように、気軽に集えて交流できる場づくりなどの村全体での交流活性を進めるとともに、民間企業等との交流を行う体制づくり等を進めます。

施策の方向

(1) 交流活動の推進

- ① イベント開催を中心に観光振興を図り、村内外の人が交流できる場をつくることにより交流人口の拡大に努めます。
- ② 若年層が参加しやすいイベントを検討します。

(2) 交流推進体制づくり

- ① 農林業、地場産業の各団体、村内外企業や大学等、さらに友好交流都市との協力体制づくりの方策を検討します。
- ② パキスタンや台湾等との国際交流の方策について検討します。

(3) 気軽に集えて交流できる場づくり

- ① カフェ、図書館、文化ホール、コミュニティスペース等がまとまり、村内外の多様な人々が気軽に集えて交流でき、大衡のよりどころとなる複合交流施設の整備を検討します。
- ② 世代間の交流機会として、おおひら万葉パークゴルフ場などを活用した交流活動を推進します。

(4) 企業等との交流活動の推進

- ① 進出企業と連携しながら、企業懇談会など他業種とも情報交換できる場の充実を図るなど、交流人口の拡大を推進します。
- ② 経験者から起業のノウハウを学ぶことができる起業塾の実施を検討します。

年度目標

施策の方向	主な事業	実施スケジュール										担当課
		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	
(1) 交流活動の推進	・ イベントの実施											産業振興課
(2) 交流推進体制づくり												産業振興課 社会教育課
(3) 気軽に集えて交流できる場づくり	・ 社会体育事業											社会教育課
(4) 企業等との交流活動の推進	・ 企業懇談会											産業振興課 社会教育課

